2D-53-0001280A

Digital Wireless
Intercom System

ＹＭＴ-１９４０

子機(PS)

取扱説明書

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。この「取扱説明書」をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。



安全上のご注意：

ここでは弊社製品を安全にご使用いただく上で大切な[禁止事項]・[注意事項]について記載します。操作に入る前に必ずお読みいただき、大切に保管し、正しくご使用いただくようお願いいたします。また廃棄の際は〔廃棄上の留意点〕を必ずお読みください。



この表示とともに記載されている事項を無視して､誤った取り扱いをすると､人が死亡または重症を負う可能性が想定される内容を示します。



この表示とともに記載されている事項を無視して､誤った取り扱いをすると、人が障害を負ったり、物的損害の発生が想定される内容を示します。



△記号は注意しなければならない内容（警告を含む）を示しています。具体的な注意内容は△の中や近くに絵や文章で示しています。左図の内容は[感電注意]を示しています。



⦸記号は、禁止内容（してはならないこと）を示しています。具体的な内容は⦸の中や近くに絵や文章で示しています。左図の場合は[分解禁止]を示しています。

- 製造責任法に規定する欠陥が存在することに起因する場合を除き、製品を使用し、お客様の生命、身体または財産に損害が生じることがあっても弊社は何ら責任を負うものではありません。
- 本製品の瑕疵によった場合でも、お客様が弊社指示以外の作業などを行った場合、その費用や損害については、弊社は何ら責任を負うものではありません。

 警告



煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。



機器内部に水や異物が入ったなどの異常状態のまま使用すると火災・感電の原因となります。



機器を落としたりカバーを破損したりした場合、そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



機器本体に直接水のかかる場所では使用しないでください。火災・感電の原因となります。



本機の分解・修理・改造は絶対にしないでください。またカバーは絶対に外さないでください。火災・感電の原因となります



梱包に使用されている袋（ポリ袋、エアパッキン等）は被らないでください。窒息する恐れがあります。



人命に関わる用途には絶対に使用しないでください。



耳を刺激するような大きい音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがありますので、適切な音量で使用してください。

 注意



長時間使用しない場合は、乾電池を本体から抜いてください。乾電池が消耗し、乾電池から液漏れが発生し、本体を損傷する恐れがあります。



乾電池はすべて＋／－の極性表示通りに正しく入れてください。正しく入れていない場合、発熱、発火、液漏れする恐れがあります。



使い切りタイプの乾電池は充電しないでください。充電すると、液漏れや破裂の原因になります。



乾電池及び充電電池を分解したり、火の中に入れたりしないでください。乾電池の中のものが目に入ると危険です。また、火の中に入れると破裂する恐れがあります。



窓を閉め切った自動車の中や直射日光が当たるところなど、異常に温度の高いところには置かないでください。火災の原因となることがあります。



埃の多い場所には置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。



乾電池は子供の手に届くところに置かないでください。お子様が誤って飲み込む恐れがあります。また、電池の液漏れなどにより炎症を起こす恐れがあります。



精密機械のため、乱暴に扱わないでください。機器が破損し、火災・感電の原因となります。



乾電池は、1 度に全部を交換してください。新しいものと古いものを一緒に使用しないでください。また、種類の異なったもの(アルカリとマンガン、メーカーの異なるもの、メーカーは同じでも商品の異なるものなど)を一緒に使用しないでください。発熱、発火、液漏れの原因になります。



電源の操作は短時間(約 1 秒間隔)の「ON-OFF-ON」を繰り返さないでください。ヘッドセットからポップノイズが出る場合があります。



清掃上の留意点：
本機の表面の清掃は、電池パックを外して行ってください。有機溶剤の使用は、筐体が腐食、変形する恐れがありますのでおやめください。清掃は、乾布で拭いてください。

廃棄上の留意点：

・お客様へ
本機を廃棄する場合は、産業廃棄物の扱いとなりますので、産業廃棄物処分業の許可を取得している会社に処分を委託してください。

・回収サービス
弊社製品による入れ替えにともなう回収をご希望される場合は、弊社営業へお問い合わせください。この場合、産業廃棄物としての管理などに関わる費用を別途請求させていただく場合があります。

電波法に関する注意事項：

電波法に基づく技術基準適合証明（利用に関してお客様の免許申請等が不要）を受けている製品については必ず次の点を守ってお使いください。



分解・改造をしないでください。分解・改造は法律で禁止されています。



技術基準適合ラベルは剥がさないでください。ラベルの無い物の使用は禁止されています。



この製品は日本国外での電波法には準じておりません。日本国内で御使用ください。
This product is for use only in Japan.

異常や不具合が起きたら：

すぐに電源を切り、電池パックを本機から抜き、販売店又は弊社カスタマーサービスにご連絡ください。連絡先は本書末尾に記載してあります。お客様による修理は危険ですので、絶対にお止めください。

ご使用上の注意

- このシステムは、電波を利用している為サービスエリア内であっても電波の届かないところ、電波の弱いところでは通話ができないことがあります。

- デジタル方式の特徴として、電波状態が悪いところでも高品質な通話を保つことができますが一定以上悪くなったときは、突然通話が途切れることがあります。あらかじめご了承ください。

- このシステムは、時分割通信方式を利用している為、他の機器に影響を与えることがあります（ワイヤレスマイク、有線マイク、補聴器等、特にコンデンサーマイク）。あらかじめご確認の上ご使用ください。

- このシステムは、時分割通信方式を利用している為、システムにノイズが混入する場合があります（ブーンという音）。あらかじめご了承ください。

- このシステムは、デジタルコードレス電話（PHS）の自営用の周波数を使用している為、構内ＰＨＳ、公衆ＰＨＳ等の影響を受けるエリアでは使用できない場合があります。あらかじめご確認の上ご使用ください。

- ハンドオーバー機能を使用する場合、親機の設置してある場所により、切替えに数秒かかる場合があります、また子機の移動方向により切り替わり方が違います。あらかじめご確認の上ご使用ください。

- このシステムは、従来のアナログ方式と比べ高い秘話性を有しておりますが、電波を使用している関係上、傍受されることが絶対無いとは言い切れません。十分ご配慮の上ご使用ください。

- 主装置と親機との接続ケーブルは、使用するケーブルによって動作する距離が前後します。あらかじめご確認の上ご使用ください。
  接続ケーブル長：最大 150m(カナレ DA206 または L-4E5C 使用時)。

その他ご不明な点等がございましたら弊社営業までご相談ください。
（連絡先は最後のページをご覧ください）

目次

1．概要

本子機は、主装置(YFF-1870)及び親機(YRW-1870)と電波で接続し通話を行うものです。子機は単三型アルカリ乾電池 2 本で連続 8 時間の使用が可能です。

本書は子機 YMT-1940 の取扱説明書です。他の機器の説明は、各機器の取扱説明書をご参照ください。

表 1．デジタルワイヤレスインターカム・システム構成例

No.	製品名	型名	英表記	略称	備考
1	主装置	YFF-1870	BASE STATION	BS	2W/4W 2 チャネル
2	親機	YRW-1870	CELL STATION	CS	
3	子機	YMT-1940	PERSONAL STATION	PS	
4	電源盤	YPL-1800	POWER UNIT	PU	

【受令専用モード 使用上のご注意】

条件によっては、同一システム内の子機または受令専用モードが親機との接続状況により、モニター音声が最大で 10 秒間聞こえなくなる場合があります。受令専用モードをご使用になる場合は、ご使用用途によっては支障をきたす場合がありますので予めご了承のうえご使用ください。
（受令専用モードについては 5.10 受令モード選択を参照ください。）

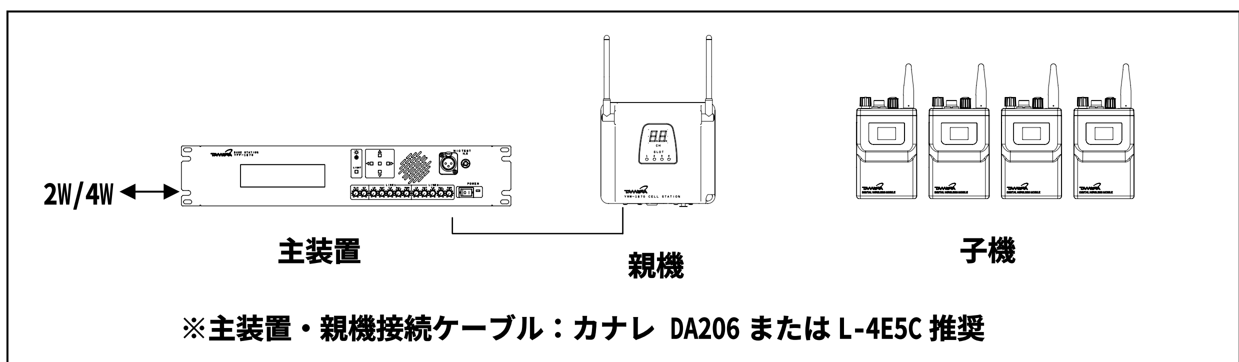
＜特徴＞

- 親機１台に最大 4 台の子機が接続し通話可能です。(フル・デュープレックス)
- 主装置－親機、親機－親機は XLR-3 ピンコネクタで接続してください。
- 主装置 YFF-1870 は標準で 4 台の親機と接続可能です。
- 主装置 YFF-1870 は最大 16 台の親機と接続可能です。（電源盤使用）

※注意

子機間で直接通話することはできません。主装置及び親機を経由して通話が行われます。
主装置を複数台同一エリアで使用する場合、専用の同期ケーブルで接続してください。

＜基本システム＞



＜旧製品との互換について＞

子機 YMT-1940 は旧製品親機 YRW-1840 と接続可能です。

2．構成

1)本体

(a) YMT-1940(PS)　　1台

2)付属品

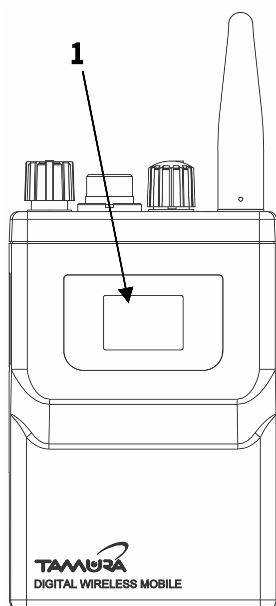
(a) 皮ケース　　1個

(b) 乾電池パック(YBA-4120)　　1個

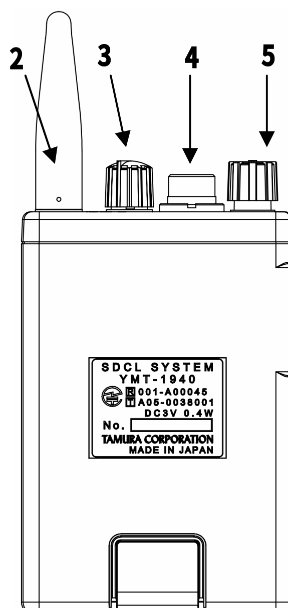
(c) 取扱説明書(本書)　　1部

3．YMT-1940 子機－各部の名称

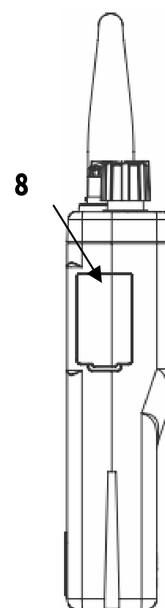
【正面】



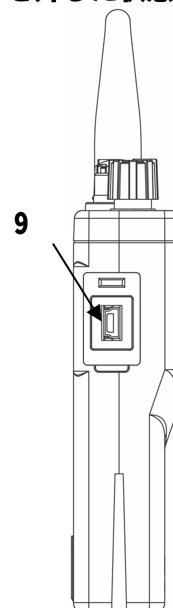
【背面】



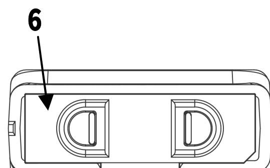
【側面】



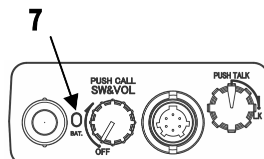
USB コネクタカバーを外した状態



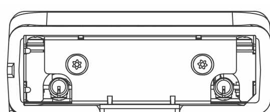
【底面】



【上面】



【底面】（電池パックを外した状態）



1．表示パネル

2．アンテナ

3．電源＆音量＆CALL スイッチ

4．ヘッドセットコネクタ
(SR30-10RA-6SE(72))

5．TALK スイッチ
※受令モードでは動作しません

6．電池パック

7．表示灯

8．ミニ USB コネクタカバー

9．ミニ USB コネクタ

4．YMT-1940 子機－各部の機能

4.1.　電池パックの取り付け

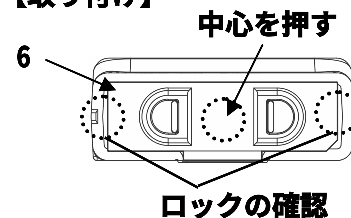
乾電池パックまたは充電池パックを取り付けます。

取り付けの際は、電池パック中心を押し、電池パックの
両端がしっかりとロックされていることを確認してください。

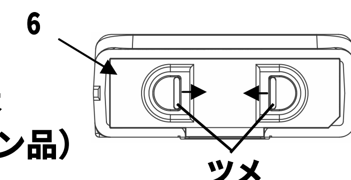
取り外しの際は、ツメを内側にスライドさせ、
本体の下方向に抜き取ってください。

YBA-4120：乾電池パック 単3形アルカリ乾電池（LR6）×2本
PBA-4120：充電池パック ニッケル水素電池　2.4V（オプション品）

【取り付け】

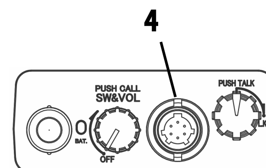


【取り外し】



4.2.　ヘッドセットの取り付け

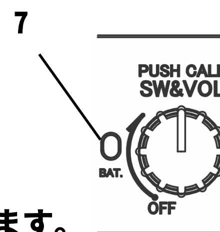
専用のヘッドセットを取り付けます。
嵌合部をあわせて入れてねじを回してロックしてください。



4.3.　表示灯

電源が「ON」になると表示灯(LED)が橙点灯します。
子機の設定が LED setup："Green->Red"の場合、
表示は下記の通りとなります。

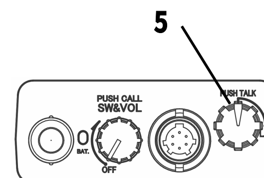
- 親機と通信状態になると緑点灯します。
- 親機と通信状態で TALK スイッチを押し込むと赤点灯します。
  ただし受令モードでは緑点灯のままです。
- 電池残量警告状態になると緑点滅します。



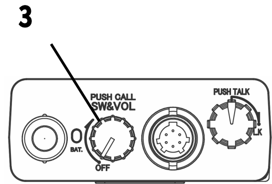
子機 ID 設定用ソフトを使い LED setup："Red->Green"と設定することで、
使用時の LED 表示色を変更することができます。
詳細は 5.7 表示灯 LED 設定を参照ください。

4.4.　TALK スイッチ ON/OFF、TALK-LOCK

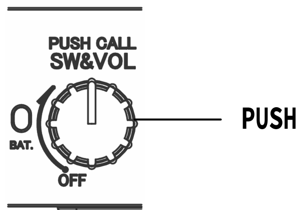
親機と通信中に TALK スイッチを押し込むとヘッドセットの
マイクがオンになります。スイッチを押して「L.K」の位置まで右に
まわすとマイクオンが固定されます。(TALK-LOCK 状態)
※受令モードでは動作しません。



4.5.　電源＆音量＆CALL スイッチ



電源スイッチ兼音量調整ボリュームです。
スイッチを時計方向にまわすと電源が「ON」となり、
「OFF」の位置で電源が「OFF」となります。
また、電源が「ON」の状態で時計方向に回すと音量が上がります。



本スイッチは押し込むことも可能で、以下の機能があります。

【外線電話発信】

親機と通信中、CALL スイッチを 1 秒以上押し込むと、主装置の外線電話が発信します。(主装置にあらかじめ登録されている電話番号に発信します)
外線通話中、CALL スイッチを再度押し込むと外線が切れます。
※電話の設定は主装置の取扱説明書を参照してください。
※受令モードでは動作しません。

【子機設定表示モード】

TALK スイッチが「OFF」の状態で CALL スイッチを押し込みながら電源を「ON」にしてそのまま押し込み続けると、子機に登録されている設定を表示パネル上で確認できます。
本モードで約 20 秒間、無操作の状態が続くと子機は通常起動します。

【大音量モード】

TALK スイッチが「ON」の状態で CALL スイッチを押し込みながら電源を「ON」にしてそのまま押し込み続けると、大音量モードで起動する確認画面へ移ります。
表示パネルの指示に従って操作すると大音量モードとして起動します。
通常起動時よりもヘッドセットから出力される音量が大きくなるのが特徴です。

※ 大音量モード対応ヘッドセット beyerdynamic 製 DT290MK2 200/80 での使用を推奨します(オプション品)。YMT-1940 と本ヘッドセットの接続には SR30-XLR 変換ケーブルが必要になります。

※ 大音量モードへの移行は電源を「ON」にする度に上記の TALK スイッチと CALL スイッチの手順が必要です。



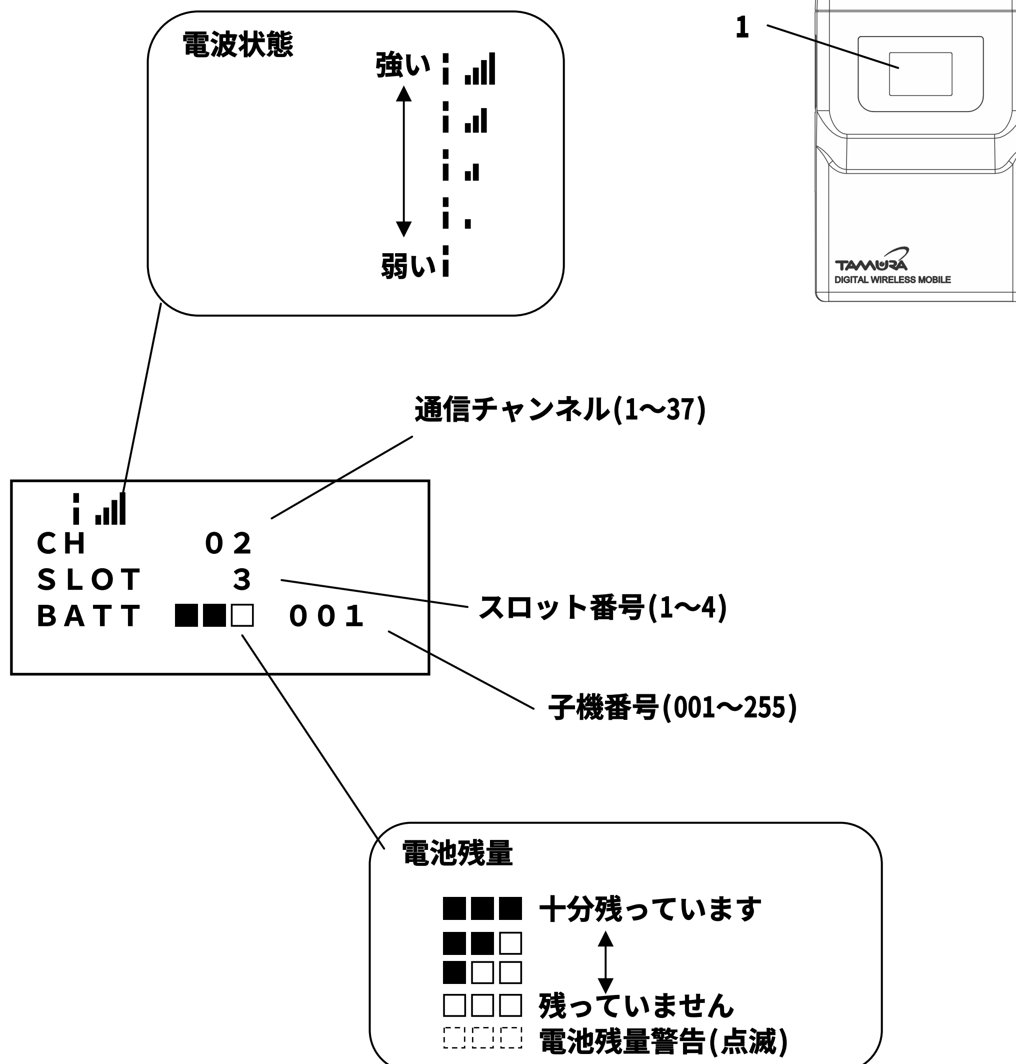
大音量モードで起動した場合、音量が大きくなるためイヤホンタイプのヘッドセット(例：HS-316D-000)で使用しないでください。聴力に悪い影響を与える恐れがあります。

4.6.　表示パネル

子機の状態を表示します。

・電波状態、通信チャネル、スロット番号

・電池残量、子機番号



【スロット番号 1～4】

周波数 1 チャネルは 4 スロットで構成されており、最大 4 台の子機と通話できます。1 台の子機との通信路がスロットとして定義されています。現在使用しているスロット番号を示します。

【子機番号 001～255】

子機番号は通常 001 から順番に割り当てます。子機識別のために用いられます。
主装置 YFF-1870 が「AUTO」モードに設定されている場合、子機番号により LINE 出力先を設定できます。
(001～099：1 系、100～255：2 系)

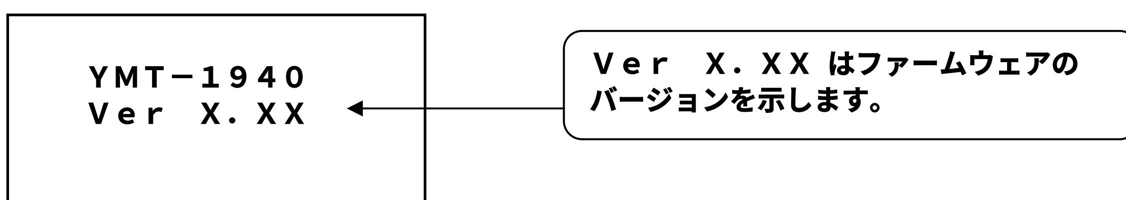
【電池残量】
電池残量表示です。使用する電池パック(YBA-4120(付属品)/PBA-4120(オプション品))によって、残量表示設定を切り替えてください。

※YBA-4120 の表示設定で PBA-4120 を使用するとフル充電しても 2 個(■■□)表示の場合があります。表示設定の切替については 5.6.電池残量表示設定を参照ください。

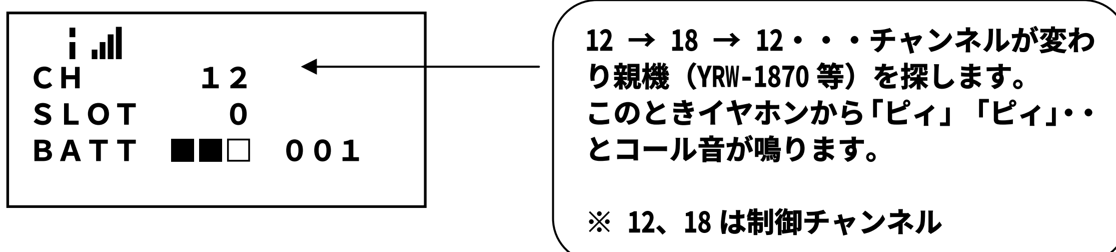
※PBA-4120 でご使用の場合は、2 個(■■□)表示になりましたら急速に電池がなくなることがありますので、□□□ 電池残量警告(点滅)表示になる前に早めに電池を交換または充電を行ってください。

4.7. 表示パネル画面説明（通常起動）

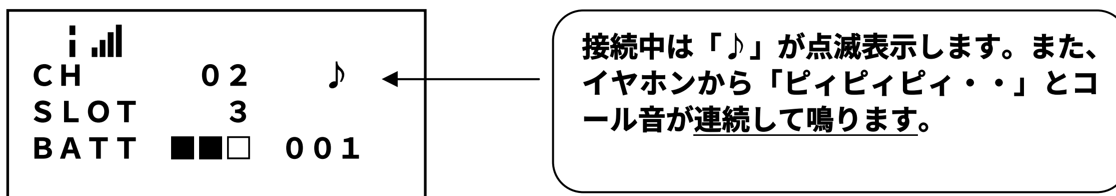
(1) 電源投入後、装置名とバージョン情報が表示されます。



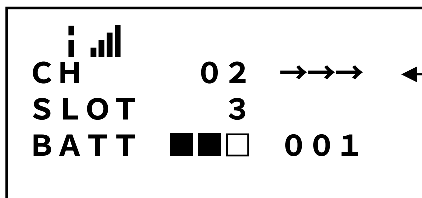
(2) 電源投入後しばらくすると、接続要求状態になります。



(3)接続中状態

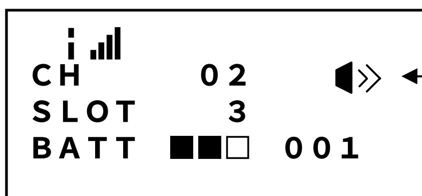


(4)接続　TALK スイッチ「ON」(受信のみ)



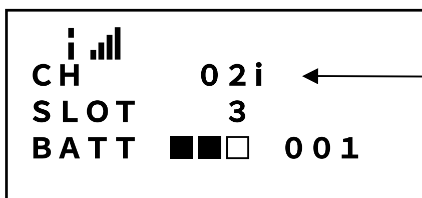
「→」が移動して表示されます。
この状態は受信状態です。

(5)接続　TALK スイッチ「OFF」(送信および受信) ※受令モードでは動作しません



「 」が表示されます。
送信、受信することができます。

(6)動作モード表示　アイソレーションモード

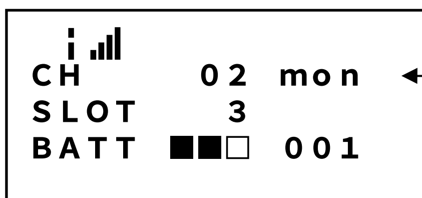


「i」が表示されます。
当該子機の 2W/4W 出力が停止します。

【アイソレーションモード】
子機の音声は出荷時設定では 2W/4W 出力されています。TALK スイッチ付ヘッドセット(例:HS-316DTSW-002)を使用すると、中間スイッチをオンにした子機のみ 2W/4W 出力を停止させることができます。

※アイソレーションモードの設定が必要です。
「5.5．アイソレーションモード設定」参照
※主装置 YFF-1870 のマトリックス設定が必要です。

(7)動作モード表示　受令モード



「mon」が表示されます。

【受令モード】
受令モードでは同一システム内の子機の通話、主装置に接続された有線機器からの通話および主装置にプログラム入力された音声をモニターすることが可能です。送話は行えません。
※受令モードの切り替えについては「5.10．受令モード選択」参照

4.8. 子機設定表示モード画面説明

(1) TALK スイッチが「OFF」の状態で CALL スイッチを押しこみながら電源を「ON」にし、下記の画面が表示されるまで押し込み続けてください。

子機設定表示モードの初期画面

```
SETTING  CHECK

    vX. XX
```

vX.XX はファームウェアのバージョンを示します。

(2) CALL スイッチを離すと設定表示画面の先頭画面を表示します。

```
STD  ABCD12345
SYSN123456789
EL_L0  VOX0
▼PUSH  CALL▼
```

STD: スタジオ名 [英数字 9 桁]
SYSN: 系統名 [英数字 9 桁]
EL_L: 表示パネル輝度 [0:通常、1:明]
VOX: VOX 機能 [0:OFF、1:ON]

(3) CALL スイッチを一度押し込み、離すことで次の画面を表示します。

```
BP_V0  BP_E0
BP_C0  BP_A0
ISO0   BAT0
▼PUSH  CALL▼
```

BP_V: 減電圧（BEEP 音）[0:OFF、1:ON]
BP_E: 弱電界（BEEP 音）[0:OFF、1:ON]
BP_C: 呼び出し音（BEEP 音）[0:OFF、1:ON]
BP_A: 音量設定（BEEP 音）[0:通常、1:小]
ISO: アイソレーション [0:OFF、1:ON]
BAT: 電池残量 [0:YBA-4120、1:PBA-4120]

(4) CALL スイッチを一度押し込み、離すことで次の画面を表示します。

```
LED0   MICG0
MODE0  PSNO123
GR1    HAND0
▼PUSH  CALL▼
```

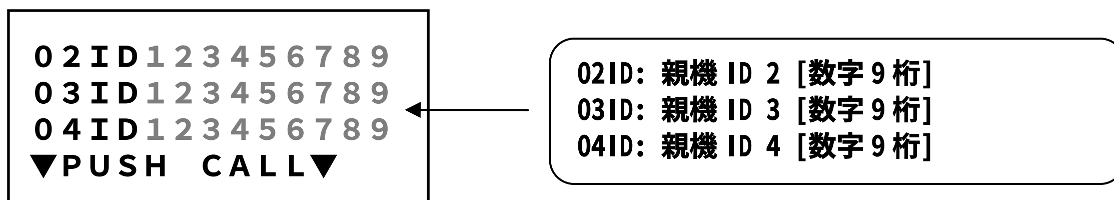
LED: LED（TALK ON）[0:緑→赤、1:赤→緑]
MICG: Mic gain [0:通常、1:小]
MODE: モード選択
[0:子機、1:受令 Type1、2: 受令 Type2]
PSNO: 子機番号 [1～255]
GR: グループ [1～4]
HAND: ハンドオーバー [0:Low、1:Medium、2:High]

(5) CALL スイッチを一度押し込み、離すことで次の画面を表示します。

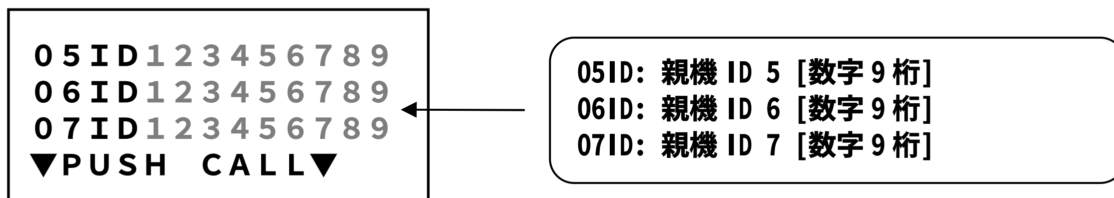
```
APC0   TXAD00
SEL00
01ID123456789
▼PUSH  CALL▼
```

APC: オートパワーコントロール [0:OFF、1:ON]
TXAD: 送信出力調整 [01～16]
SEL: 接続親機 No. [00～16]
01ID: 親機 ID 1 [数字 9 桁]

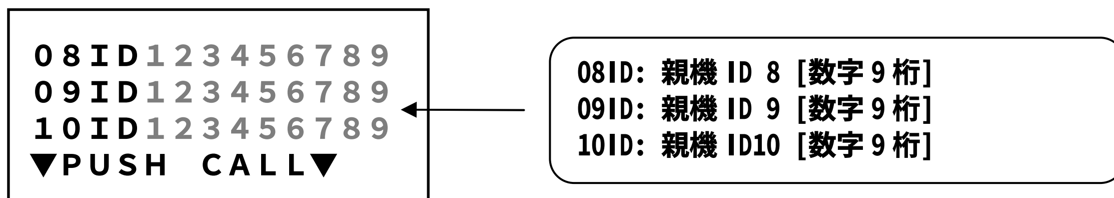
(6) CALL スイッチを一度押し込み、離すことで次の画面を表示します。



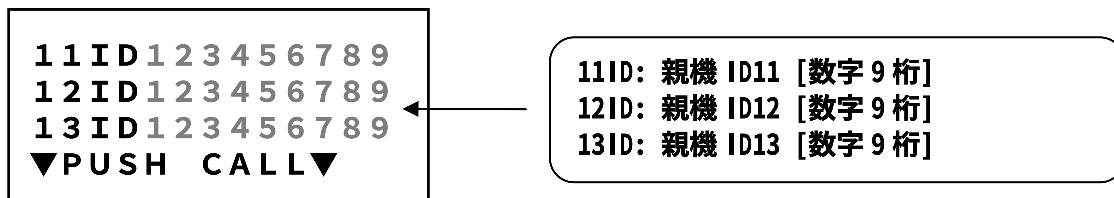
(7) CALL スイッチを一度押し込み、離すことで次の画面を表示します。



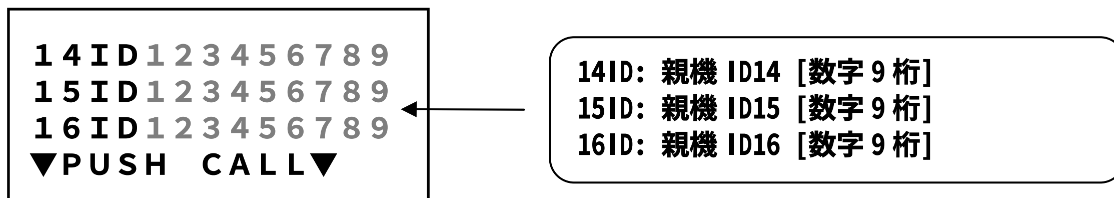
(8) CALL スイッチを一度押し込み、離すことで次の画面を表示します。



(9) CALL スイッチを一度押し込み、離すことで次の画面を表示します。



(10) CALL スイッチを一度押し込み、離すことで次の画面を表示します。



再度 CALL スイッチを一度押しこみ、離すことで(2)の画面に戻ります。
設定表示モードを終了するには電源を一度「OFF」にし、再度「ON」にしてください。通常起動します。
また、本モードにて約 20 秒間、無操作の状態が続きますと子機は自動的に通常起動します。

4.9. 大音量モード画面説明

(1) TALK スイッチが｢ON｣の状態で CALL スイッチを押しこみながら電源を｢ON｣にし、
下記の画面が表示されるまで押し込み続けてください。
※TALK スイッチが｢ON｣で固定(TALK-LOCK)されていないことを確認してください。

大音量モード設定画面

```
HEADSET  SEL

CALL：NORMAL
TALK：LOUD
```

CALL スイッチを一度押しこみ、離すことで
通常音量モード（NORMAL）を選択します。
TALK スイッチを一度押しこみ、離すことで
大音量モード（LOUD）を選択します。

(2) 通常音量モード又は大音量モードを選択することで次の確認画面が表示されます。

通常音量モード選択画面

```
NORMAL  SET

CALL：OK
TALK：CANCEL
```

CALL スイッチを一度押しこみ、離すことで
通常音量モードの選択を決定します。
TALK スイッチを一度押しこみ、離すことで
選択をキャンセルし、(1)の画面に戻ります。

大音量モード選択画面

```
LOUD  SET

CALL：OK
TALK：CANCEL
```

CALL スイッチを一度押しこみ、離すことで
大音量モードの選択を決定します。
TALK スイッチを一度押しこみ、離すことで
選択をキャンセルし、(1)の画面に戻ります。

※(1)及び(2)の画面の状態から約 20 秒間、無操作の状態が続きますと子機は
自動的に通常起動します。

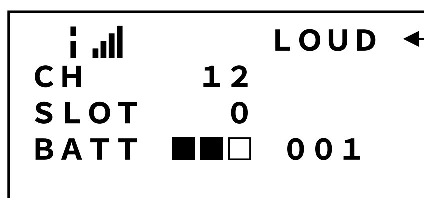
(3) 大音量モードを決定することで、次の画面が表示され、大音量モードに移行します。

```
YMT－1940
 Ver  X.XX
 －LOUD－
```

「-LOUD-」が表示されます。

通常音量モードを決定した際は、通常起動します。

(4) 大音量モードで動作中の画面

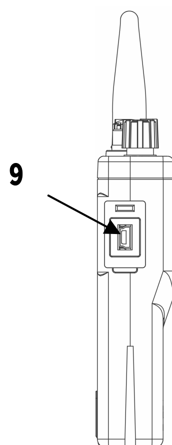


「LOUD」が表示されます。

大音量モードを終了するには電源を「OFF」にしてください。

4.10. ミニUSBコネクタ

子機 ID 設定用ソフトがインストールされている Windows パソコンと USB ケーブル (A:miniBタイプ。推奨ケーブルはエレコム株式会社製USB-ECOM510です。)で接続します。子機の設定を変更する際に使用します。



5. 子機 ID 設定用 PC ソフト

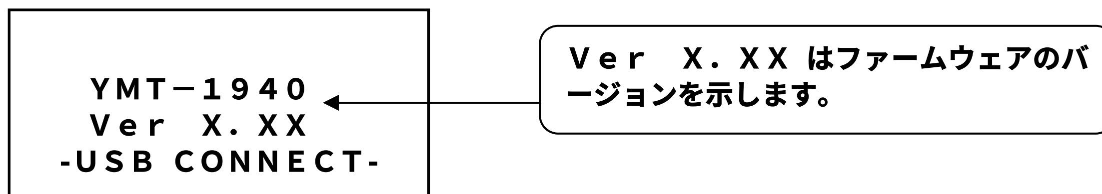
子機 ID 設定用 PC ソフトを使用することで、子機の各種設定情報の読み出し書き込みができます。
※アプリケーションの使い方は子機 ID 設定用 PC ソフトの取扱説明書を参照ください。

【注意】

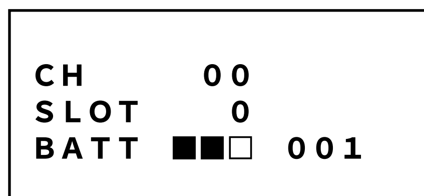
- USB1.1 の Full-Speed 規格準拠。
- 子機は USB ケーブルからの給電をサポートしていません。子機に電池パックを装着した上で USB 接続を行ってください。
- USB 接続した際、電池パック PBA-4120 の充電はできません。
- パソコン 1 台に対して複数台の子機を同時に接続しないでください。複数台の子機を設定する際は、子機を 1 台ずつつなぎ変えてください。
- USB ハブまたは USB 延長ケーブルは使用しないでください。USB 接続しても子機が認識されない場合があります。
- USB ケーブルの抜き差しは子機の電源が「OFF」の状態で行ってください。

＜表示パネル＞

(1) 子機を USB ケーブルでパソコンと接続した状態で電源投入すると「-USB CONNECT-」が表示されます。



(2) USB 接続中は次のように表示されます。



設定終了後は子機の電源を「OFF」にし、USB ケーブルを取り外してください。

5.1. スタジオ名、系統名、子機番号の指定

子機に書き込むスタジオ名、系統名、子機番号を指定できます。

STUDIO ・・・ スタジオ名を英数大文字 9 桁以内で指定できます。

SYSTEM ・・・ 系統名を英数大文字 9 桁以内で指定できます。

PS No. ・・・ 子機番号を 1～255 まで指定できます。

5.2. 表示パネル輝度設定（Display luminance setup）

表示パネル輝度設定の Standard(標準)または High(明)を選択できます。

Standard ・・・ 標準

High ・・・ 明るい

【注意】High に設定した場合は、子機の使用時間が通常より短くなります。

5.3. VOX 機能設定（VOX function setup）

VOX 機能の ON または OFF を選択できます。

～VOX 機能とは？～

受信音を検出した時だけヘッドホンからの出力を有効にする機能です。
無音時にサーっと聞こえるノイズを低減し、長時間子機を使用し続けても
耳が疲れにくくなります。

【注意】音に反応してヘッドホン出力のスイッチが ON になるため、最初の発音が途切れる場合があります。

OFF ・・・ VOX 機能 OFF。

ON ・・・ VOX 機能 ON。受信音を検出した時だけヘッドホン出力されます。

5.4. ビープ音設定

各種ビープ音の出力のON/OFFの切替、及びビープ音の音量設定ができます。

Low voltage alarm　・・・

電池残量警報時のビープ音のON(出力)またはOFF(停止)を選択できます。

Weak electric field alarm　・・・

弱電界警報時のビープ音のON(出力)またはOFF(停止)を選択できます。

CS call tone　・・・

呼び出し時のビープ音のON(出力)またはOFF(停止)を選択できます。

Volume setup　・・・

ビープ音量設定のStandard(標準音量)またはLow(小)を選択できます。

5.5. アイソレーションモード設定（Isolation setup）

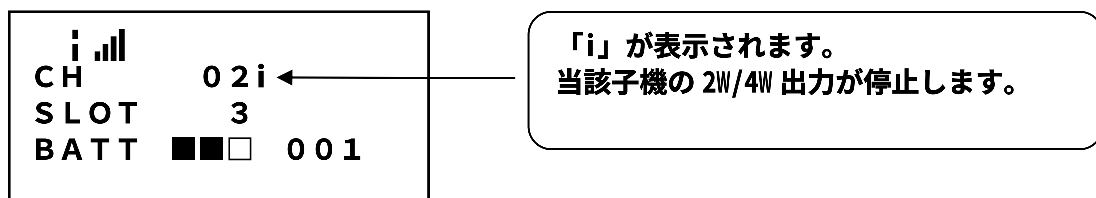
子機の音声は出荷時設定では 2W/4W 出力されています。TALK スイッチ付ヘッドセット(例:HS-316DTSW-002)を使用すると、中間スイッチをオンにした子機のみ 2W/4W 出力を停止させせることができます。

OFF　：　アイソレーションモード無効。
　　　　ヘッドホンの中間スイッチの切替は送話の ON/OFF 切替です。(子機本体側の TALK スイッチと連動します。)

ON　：　アイソレーションモード有効。
　　　　ヘッドホンの中間スイッチが ON の時に 2W/4W 出力を停止することができます。
　　　　子機本体側の TALK スイッチは通常通り送話の ON/OFF の切替です。

【注意】Operation mode (受令モード選択)にて Type1 receiver mode、Type2 receiver mode を選択した場合は、アイソレーションモード設定は選択できず OFF 固定となります。
※受令モードについては「5.10. 受令モード選択」参照

アイソレーションモード設定を ON（有効）にし、中間スイッチを｢ON｣にした際には
表示パネルにおいて以下のように通信チャンネルの右側に「i」が表示されます。



※アイソレーションモード設定を有効にする場合、主装置 YFF-1870 のマトリックス設定も必要です。設定方法は主装置の取扱説明書を参照ください。

5.6. 電池残量表示設定（Battery indicator mode）

表示パネルに表示される電池残量表示です。使用する電池パック(YBA-4120(付属品)/PBA-4120(オプション品))に応じて、電池残量表示設定を切り替えてください。

YBA-4120　：　電池残量表示を YBA-4120 用に設定

PBA-4120　：　電池残量表示を PBA-4120 用に設定

【注意】YBA-4120 の表示設定で PBA-4120 を使用するとフル充電しても
　　　　2 個(■■□)表示の場合があります。

5.7. 表示灯 LED 設定（LED setup）

親機と通信状態での表示灯の点灯方法を変更することが可能です。

Green -> Red　：　親機と通信中に緑、親機と通信状態で TALK スイッチを｢ON｣にすると赤点灯します。（ただし受令モードでは緑点灯で固定です。）
電池残量警告状態になると緑点滅します。

Red -> Green　：　親機と通信中に赤、親機と通信状態で TALK スイッチを｢ON｣にすると緑点灯します。（ただし受令モードでは赤点灯で固定です。）
電池残量警告状態になると赤点滅します。

5.8. マイクゲイン設定（Mic gain setup）

ヘッドセットのマイクの感度を２段階で調整することができます。

Standard　：　通常のマイク感度設定です。

Low　：　Standard 時よりもマイクの感度が下がります。
周囲の音を拾いやすい、もしくは、ハウリングが発生しやすい場合に Low に設定してください。

5.9. 親機 ID 設定（CS ID)、接続親機設定（CS No. selection）

接続する親機の ID を設定します。

- 親機には CS ID が割り当てられています。(CS ID：数字 9 桁)
- 登録されている CS ID のメモリ番号（CS No.）を設定し通信する親機を選択します。(下記例は 2 台分)
- 親機増設時 CS ID を子機に登録する必要があります。

CS No.	CS ID
0	Hand-over
1	170639018
2	170639019
3	000000000
4	000000000
5	000000000
6	000000000
7	000000000
8	000000000
9	000000000
10	000000000
11	000000000
12	000000000
13	000000000
14	000000000
15	000000000
16	000000000

CS ID を子機に登録できます。
※最低 1 つ以上に ID を登録してください。
※CS No. selection にて選択した CS No.の CS ID は必ず指定してください。

登録できる ID は最大 16 個です。

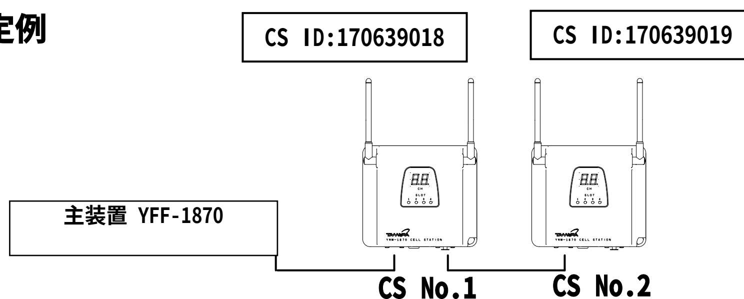
CS No. selection	0

CS No. selection で指定された親機に接続します。

接続親機設定例
「1」:CS No.1 と接続(CS ID:170639018)
「2」:CS No.2 と接続(CS ID:170639019)
「0」：ハンドオーバー

ハンドオーバーとは？
1～16 に登録されている親機のいずれかに接続されます。何らかの原因で親機との通信が遮断されても別の親機に自動的に接続されます。

設定例



5.10. 受令モード選択（Operation mode）

本体の運用モードを３タイプ(子機／受令 Type1／受令 Type2)で選択することができます。1 台の親機に対して子機モードでは 4 台までしか接続できませんが､受令 Type１および受令Type2のモードで起動した場合に限り親機との同時接続数を 4 以上とすることができます。

PS mode ： 子機として動作します。
送話と受話が可能です。

Type1 receiver mode ： 受令専用モードとなり送話はできません。
親機と接続する場合には子機もしくは Type2 受令モードの子機が１台以上接続されている必要があります。
（Type1 受令モード単体では親機と接続することができません。）

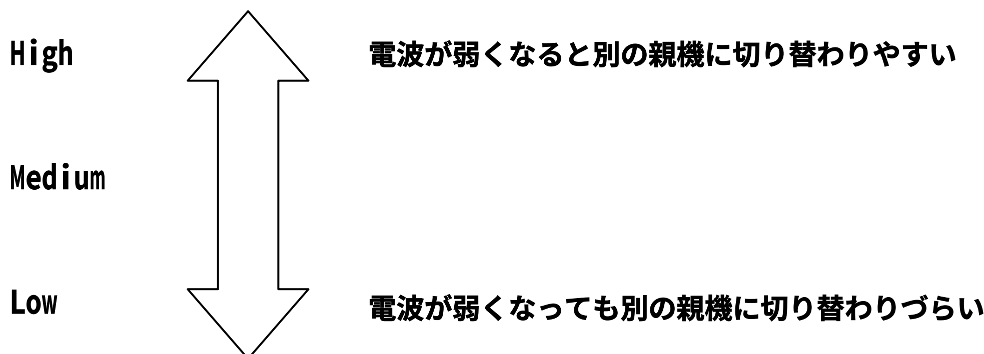
Type2 receiver mode ： Type1 と同様、受令専用モードとなり送話はできませんが親機と通信状態の子機がいなくても受令 Type2 モードの子機単体で接続することが可能です。

5.11. グループ設定（Group setup）

グループを 1～4 で選択することができます。通常「１」が設定されています。
※変更しないでください。通信できなくなります。

5.12. ハンドオーバー設定（Hand-over threshold level）

ハンドオーバーレベル(複数の親機で運用中、電波状態によって別の親機に切り替えやすくなるレベル)を３段階で調整できます。Low 設定にするほど受信電波が弱い状態でも親機を切り替えずに通信状態を維持します。



6．定格性能

測定温度 25℃±5 ℃に於いて下記の通り

高周波共通部

1)	電波形式	G1D.G1E.G1X 又は、G1W　（通話チャネルのみ） G1D　（制御チャネルのみ）
2)	使用周波数	1895.150～1905.950MHz(STEP300kHzで35波の中の1波)（通話) 1898.450/ 1900.250MHz(制御)
3)	発信方式	水晶制御周波数シンセサイザ
4)	周波数安定度	±3×10^{-6} 以内
5)	空中線ｲﾝﾋﾟｰﾀﾞﾝｽ	50Ω
6)	空中線形式	λ/4フレキシブル又はワイヤーアンテナ
7)	空中線利得	2.14dBi以下
8)	多重数	4
9)	通信方式	マルチキャリアTDMA-TDD

送信部

1)	空中線電力	10mW以下（+20,-50%以内)
2)	変調方式	π/4シフトQPSK
3)	変調精度	12.5%以下
4)	占有周波数帯幅	288kHz以内
5)	ｽﾌﾟﾘｱｽ発射の強度	250nW以下（帯域内)、2.5μW以下（帯域外)
6)	隣接ﾁｬﾈﾙ漏洩電力	600KHz離調： 800nW以下 、 900KHz離調： 250nW以下
7)	筐体輻射	2.5μW以下
8)	音声周波数	3kHz以下
9)	マイク入力	-60dBm（不平衡）

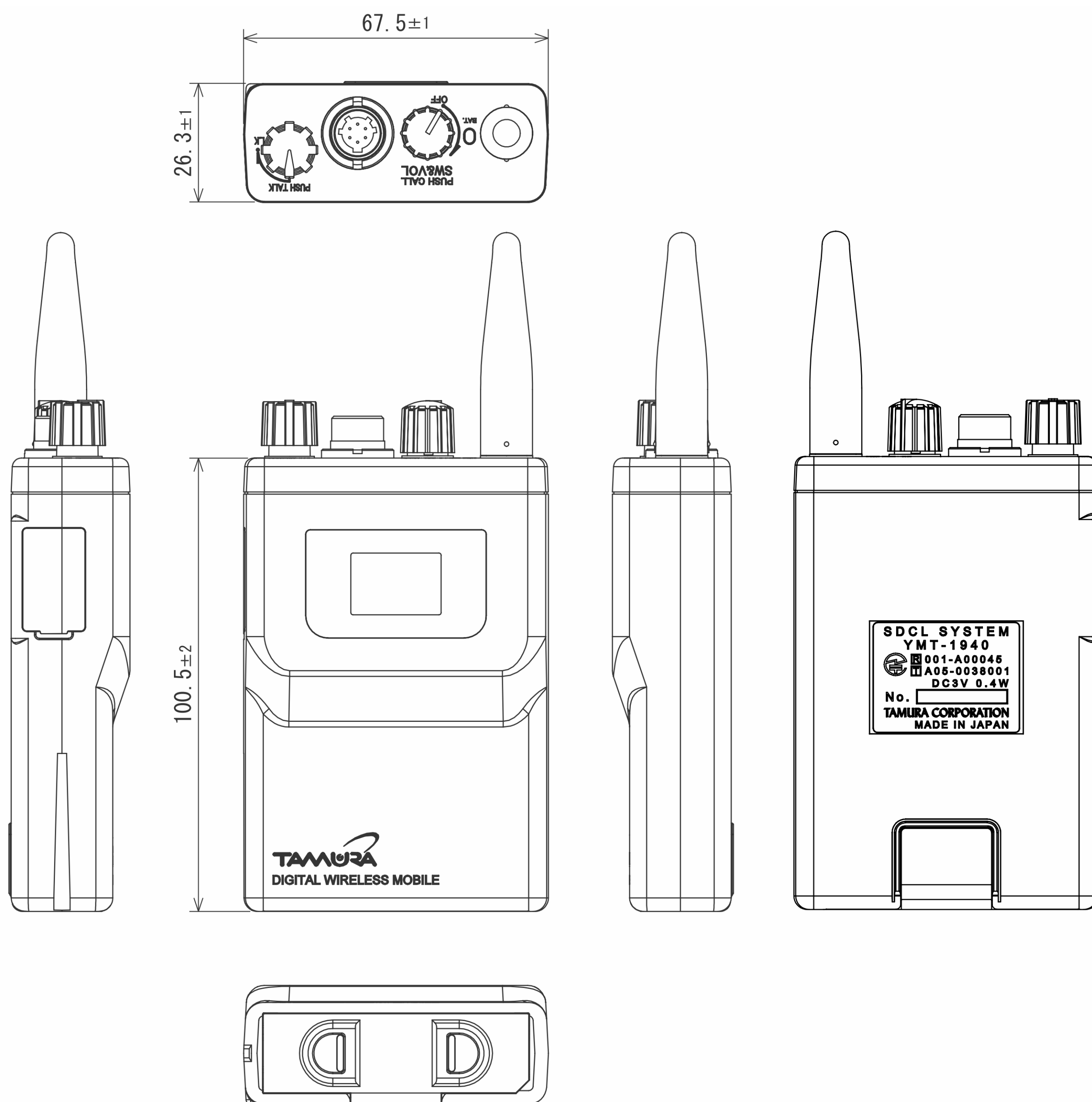
受信部

1)	受信方式	ダブルスーパーヘテロダイン
2)	受信感度	16dBμV以下（BER 1×10^{-2}）
3)	ｽﾌﾟﾘｱｽ感度	47dB以上
4)	副次的電波発射強度	4nW以下
5)	筐体輻射	4nW以下(1GHz 以内)　20nW以下(1GHz 以上)
6)	隣接ﾁｬﾈﾙ選択度	50dB以上(600KHz 離調)
7)	音声周波数	3kHz以下
8)	音声出力	10mW以上(8Ω時)、200mW以上（55Ω時）
9)	音声歪み	3%以下（基準出力時）

その他共通部

1)	使用電源	DC3.0V　単三型アルカリ乾電池2本
2)	使用時間	送受信時　連続8時間以上（YBA-4120使用時）
3)	筐体構造	空中線は筐体一体型（取り外し禁止） 筐体は容易に開けることができない構造
4)	使用環境範囲	温度：-10～+50℃ 湿度：30～90%（結露なき事）
5)	保存環境	温度：-25～+70℃
6)	外形寸法	W=67.5 × H=100.5 × D=26.3（mm）（突出物の寸法を除く）
7)	質量	約205g（電池パック：YBA-4120　質量71gを含む）
8)	呼出名称	規定された様式で筐体内部の見やすい場所に表示 また、呼出名称記憶装置により、呼出名称を記憶しなければ電波の発射を可能としないこと
9)	規格	① 電波法第四条第一項第三号に準拠 ② 電波法施行規則第六条第四項第五号に準拠 ③ 電波法無線設備規則第四十九条の八の二号に準拠 ④ 電波法無線設備規則第四十九条の八の三号に準拠 ⑤ 「デジタルコードレス電話システム」ARIB　STD-28に準拠
10)	使用環境	自営用で使用

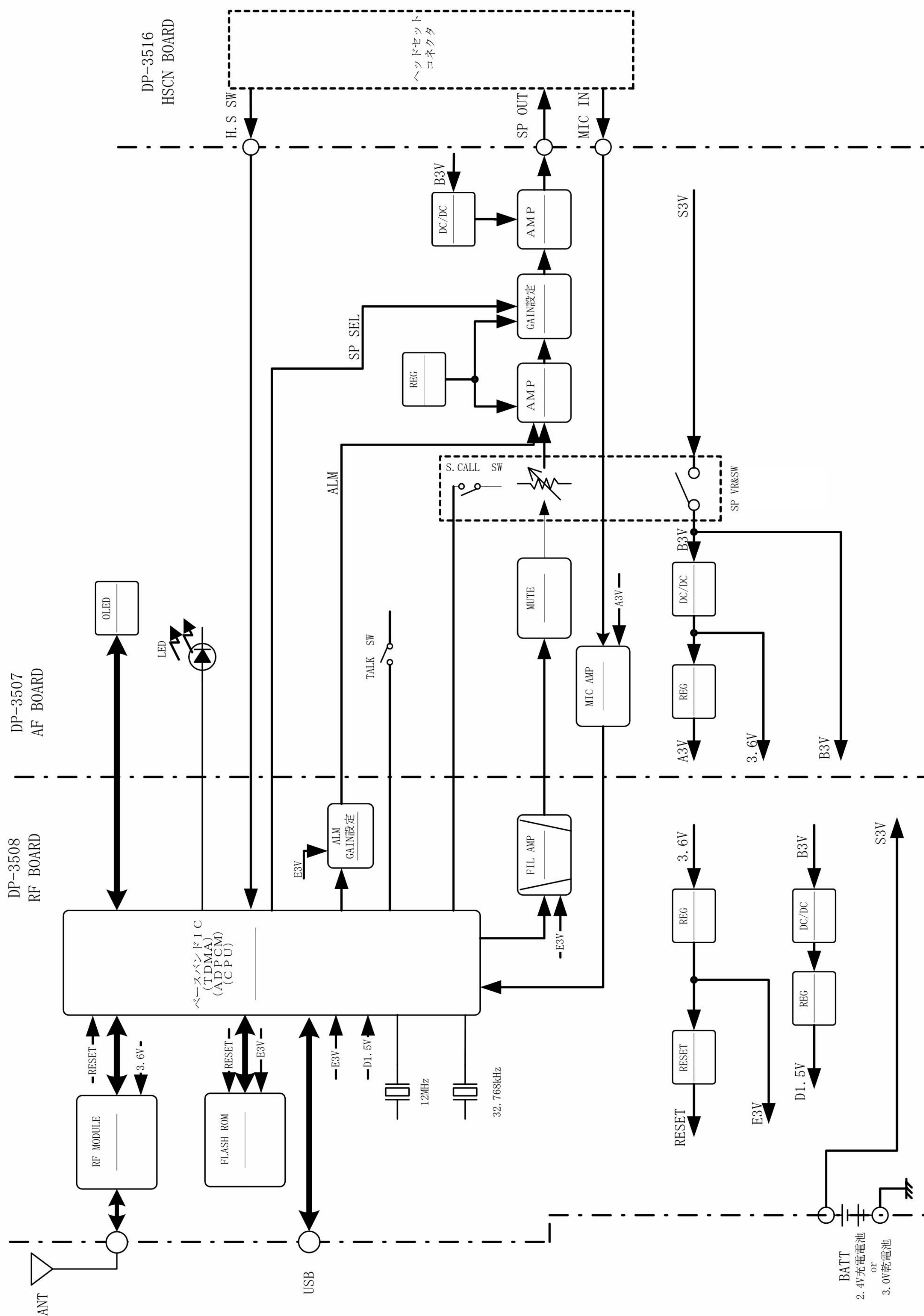
7. 外形図



単位は ㎜

仕様変更などにより、図や内容が一部異なる場合があります。

8. 系統図



DP-3516
HSCN BOARD
ヘッドセット
コネクタ
H.S SW
SP OUT
MIC IN
B3V
DC/DC
AMP
S3V
SP SEL
GAIN設定
REG
AMP
ALM
S.CALL SW
SP VR&SW
B3V
DC/DC
OLED
LED
TALK SW
MUTE
A3V
MIC AMP
REG
A3V
3.6V
B3V
DP-3507
AF BOARD
DP-3508
RF BOARD
ALM
GAIN設定
E3V
FIL AMP
E3V
3.6V
REG
B3V
DC/DC
S3V
ベースバンドＩＣ
（ＴＤＭＡ）
（ＡＤＰＣＭ）
（ＣＰＵ）
REG
RESET
3.6V
RESET
E3V
E3V
D1.5V
12MHz
32.768kHz
RF MODULE
FLASH ROM
RESET
E3V
D1.5V
ANT
USB
BATT
2.4V充電池
or
3.0V乾電池

9．故障かなと思ったら

修理のご依頼前に、もう一度点検してください。
それでも正常に動作しないときは、弊社営業までご相談ください。

症状	原因	対処のしかた
電源が入らない。	電池パックが実装されていない。	「4.1 電池パックの取り付け」を参照の上実装してください。
	電池の容量がない。	YBA-4120 の場合、アルカリ単三乾電池を新品のものと交換してください。 PBA-4120 の場合、充電されている電池パックと交換するか、電池を充電して使用してください。
「ピィ」「ピィ」と音がして親機と接続しない。	主装置(YFF-1870 な)及び親機(YRW-1870 など)の電源が入っていない。	主装置(YFF-1870 な)及び親機(YRW-1870 など)の電源を入れてください。
	親機 ID(CS ID)が違っている。	「5.9 親機 ID 設定(CS ID)」を参照して設定してください。
	グループ設定が違っている。	「5.11 グループ設定」を参照して設定してください。
主装置からの音声は聞こえるが子機からの音声が主装置側に出ない。	TALK SW が押されていない。	「4.4 TALK スイッチ ON/OFF、TALK-LOCK」を参照の上設定してください。
主装置からの音声が聞こえない。	ヘッドセットのイヤホンが抜けかかっている。	イヤホンをしっかりとヘッドセットに挿入してください。
USB 接続ができない。	電池パックが実装されていない。	「4.1 電池パックの取り付け」を参照の上実装してください。

※そのほか主装置の設定が原因の場合があります。
主装置(YFF-1870 など)の取扱説明書も確認してください。

MEMO

保証規定

保証期間は　ご購入日より１年間

保証期間中に正常な使用状態のもとで、万一故障が発生した場合には無償で
修理いたします。但し下記事項に該当する場合は無償修理の対象から除外します。

１．不当な修理や改造による故障
２．不適当な取扱い又は使用による故障
３．天災など故障の原因が本機以外の事由による故障
４．ご購入後の輸送、移動、落下等による故障及び破損

ご使用中に不具合が発生し修理を必要とする場合、また動作運用上についてご不審の点がある場合、その他弊社取扱品目についてご要望事項がありましたら、弊社営業までご連絡ください。

なお、修理・再調整期間を短縮するために事故状態・ご使用期間などの経歴をできるだけ詳細にお知らせください。

株 式 会 社　タムラ製作所
ブロードコム事業部
〒178-8511　東京都練馬区東大泉 1-19-43
営 業　TEL　０３－３９７８－２１４１、２１４６ （ダイヤルイン）
FAX　０３－３９７８－２００５
カスタマーサービス　TEL　０３－３９７８－２１４２ （ダイヤルイン）
FAX　０３－３９７８－２００５
西 日 本 営 業 所
〒564-0062　大阪府吹田市垂水町 3-27-27　第 2 江坂三昌ビル 5F
TEL　０６－４８６１－７７２２ （代表）
FAX　０６－４８６１－７７２８